

こんにちは日本共産党村議の 川崎あつ子です

2009年 5月 10日 19

ご相談はお気軽にお寄せください

〒319-1106 東海村白方284-1 TEL/FAX 029-282-0229
atsukok@nexyzbb.ne.jp

原子力 問題

川崎「延期せざるを得なくなつた理由を伺います。原発が昨年3月31日に国に提出した東海第二発電所の耐震安全性評価結果中間報告書は、新たに見つかった海域の断層について、古い断層であつて、今後も地震を発生させるような断層ではないと即断しています。ところが、昨年7月2日に行われた原子力安全・保安院の審査会で衣笠善博審査官は「断層の変化量が小さいことを理由に活動の可能性が低いとしているが、この考え方は不適切」と指摘しています。このことが最終報告の提出を延期せざるを得ない真の理由となつていないのでは無いでしょうか。村はどう認識していますか、伺います。」

地質調査用の起震車



「経済環境部長の答弁「東海第二発電所の評価内容にかかるとする専門家からの意見を踏まえて、中間報告の内容を妥当とする根拠、これを充実させるため、原発は陸域のさらなる地質地盤構造等のデータ拡充を目的とした調査を行い、その結果、最終報告の時期が延期されることとなったもの」と認識している。最終報告については、今年夏頃に出されるものと考えます。」

川崎「東海第二発電所は、不十分な耐震安全性評価を進めるもつとで、出力の5%上昇やプルサーマルの危険を住民に押しつけることになるやり方はやめるべきです。」

「ところで、海域のデータはどうしたのでしょうか。」

日本原電東海第二発電所は、4月24日の村議会全員協議会において、2009年度の事業計画を説明しました。その中で、使用済み燃料を再処理し回収したプルトニウムを利用するプルサーマル計画を、「地域の皆様のご理解を得られるよう努力しながら取り組んでまいります。」と話しました。

プルサーマル計画とは、使用済み核燃料からプルトニウムを取り出し、ウランと混ぜてモックス燃料にして、再び原発(軽水炉)で使うことです。プルサーマルは次のような危険性が指摘されています。プルトニウム使用はウランに比べて放射能が一万年から一億倍という猛毒物質であり危険です。プルトニウムを軽水炉で燃すための国内での実験は、2体(敦

**危険極まりない
プルサーマル
計画撤回せよ!**

賀一号機)、4体(美浜一号機)など少数体の実験のみで、海外でも年間10体前後の実験だけです。原電東海は762体の燃料体の3分の1にあたる254体のモックス燃料が必要になり、商業利用の実績なしであり無謀です。

プルサーマルは中性子の量が増加し原子炉をさらに傷めます。使用済燃料は敷地内長期保存しかありません。

現在運転されている軽水炉は、すべてウラン燃料を使用するよう設計されています。

「プルサーマルは、石油ストーブにガソリンをまぜて燃やすようなもので、危険極まりないものだ!」と言う住民もいるほどです。

プルサーマル計画が安全性、経済性、必要性のすべての面で、その導入根拠が失われています。プルサーマルは百害あって一利なし

プルサーマル計画の問題点をしっかり話し合ひましょう



安心して働き、暮らせるルールある日本社会実現へ、政治の中身を変える日本共産党。
比例代表選挙は
日本共産党へ